

平成 22 年 4 月 1 日 発行

新しい年度に当たって 田邊理事長

地球温暖化の影響もあつてか、今年は例年より 13 日も早く桜が開花したそうですが、その後の冷え込みでなかなか満開に至らず、結果として長期にわたって花を楽しむことができたようです。



しかしながら、のんびりと花見を楽しむような気分にもなれないほど、私たち生コン業界を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。

平成 21 年度の本県の生コン出荷数量は 883, 000 m³で、当初の予想 776, 000 m³は超えましたが、前年実績比 96. 7%で確実に減少しています。また、確定はしておりませんが全国的には 860 万 m³で、前年比 85%となっています。

本年(22 年)度の出荷予想は、皆様からの資料を集計して 710, 000 m³となっています。例年ですと実績が予想よりかなり多いのが普通ですが、鳩山首相の「コンクリートから人へ」のキャッチフレーズのもとに公共工事関連の施策が大幅に後退するなど、先行きの読めない状況となっています。

こうした中で、4 月 1 日から納入伝票への原材料単位量の記入及び全てのバッチの計量値記録の保存が義務付けられ、実情としてまだ手探りの状態のスタートとなりました。実際に運用して行く中で新たな問題の発生も予想されますが、技術担当者を中心に改善してゆかれることを切望いたします。

また、本年度は構造改善事業 5 年計画の最初の年であり、全生連の指導の下にこれを進めていきたいと考えています。厳しい環境下での経営改善には集約化を主眼においた構造改善が必須と思われませんが、それを実効あるものにするには共販体制維持が必須であり、組合員が一丸となる必要があります。組合員の皆様のご協力のもとに、この難局を乗り越りたいと思っております。

コンクリートから人へ?

いささか旧聞になりますが、昨年末の高知新聞「声ひろば」欄に、一宮生コンクリート株式会社山崎社長の次のような文章が掲載されました。読まれた方も多いと思いますが、見落としたという方もあろうかここに掲げてみます。

「私たちコンクリートは、日ごろたくさんの人々の生活の安全と安心を裏側から支えている。それなりに人間社会から感謝されてきたという自負もある。

ところが今年の政変以来、私たちは突然、人間に敵対するものとして全否定される羽目になってしまった。もう、黙ってはいられない。

とりわけ高知産の優れた品質の石灰石を材料とする生コンクリートは、耐久性が飛躍的に向上している。通常、コンクリートの寿命は 50 年と言われているが、研究を重ねてできあがった高性能のコンクリートでは、その寿命が 100 年あるいは 200 年にも伸びると考えられている。

住宅で考えれば、親子 2 代で壊さなければならなかった家が、4 代から 8 代まで使えるとなると、その経済効率はいかばかりか。環境負荷も極めて少ないことになる。

来るべき南海大地震に備え、欧米並みの豊かな社会資本を手に入れるためには、まだまだ私たちが頑張らねばならない。新政権には本当に必要なものを厳しく選択し、ライフサイクルの長い構造物を長期的な視野を持って建設していただきたい。

机上でスローガンを考える都会の政治家の皆さんに、日夜人間のために改善努力を続けて私たちのつばやきが届くことを願っている」

というものです。鳩山内閣が発足してすでに半年が過ぎましたが、政治的にも経済的にも日本の行く末は日を追って混迷の度を増し、国民意識の中に半ば諦めムードが漂っているようにさえ見えます。

首相は施政方針の中で「コンクリートから人へ」というスローガンを掲げ、公共工事を目の敵にしましたが、その後も繰り返し、このフレーズを使っていますが、それにしても私たちのコンクリートをよくもここまで名指して悪者にしたものだと、呆れてしまいます。

これに対するコンクリート関係者からの抗議を受け、首相は「公共事業はあまりにも過ぎたところがあったので、もっと大事な『人間のための経済』に予算を使うという意味だと答えています、コンクリート

産業は人間のための経済ではないとでもいうのでしょうか。

特定の産業界や商品を悪者に仕立てるのということは、公人として許されることではありません。なぜ「モノから人へ」などといった偏らない表現にしなかったのか分かりませんが、ここら辺りにも首相及び周辺の浅慮さがうかがえます。

主任技士試験合格者

昨年 11 月に実施された日本コンクリート工学協会の平成 21 年度コンクリート主任技士試験の合格者が発表されました。

編集局の把握している範囲では、(有)高知コンクリートサービス試験室の山本卓矢氏がみごと合格されています。



山本卓矢

試験室に配属されて 1 年半が過ぎましたが、未だに慣れない日常業務に追われて過ごしています。私がコンクリート技士を受験した動機は、出荷量の減少に伴って生じた時間を

何とか有効に活用したい、もっと生コンの勉強をしたい、そして資格も取りたいと思ったからです。

技士を取得して試験室業務に携わる中で、上司を始めお得意先の技術者の方々、他工場の先輩諸氏にいろいろと教わる中で、さらなる技術力や知識の向上が必要であることを痛感し、主任技士に挑戦しました。

何とか合格はしたものの、資格を日常業務にいかにか生かすべきか、体外的な信用につなげていくべきかを考えると、まだまだ実力の乏しさを痛感しています。

これからも積極的にスキルアップを積み重ね、資格に恥じないよう学んでいこうと思っています。

日和崎生コン脱退

日和崎生コン株式会社が 3 月 31 日を以って高知県中央地区生コンクリート協同組合を脱退しました。これにより同協組は 20 社 10 工場となりました。

2工場が休止 幡多協組

(有)幡多生コンクリートサービス楠島工場が 3 月 31 日を以って操業を休止し、生コンは主として古津賀工場から出荷することとなりました。また、(有)宿毛コンクリートサービス田ノ浦工場も同日を以って操業を休止し、高砂工場から出荷することとなりました。これにより、同協組は 13 社 4 工場体制となりました。

責任者が交代 幡多試験所

技術センター幡多試験所の佐々木政則所長が 4 月 30 日を以って退職されます。佐々木氏は平成 18 年 4 月の開所以来 4 年間にわたり、幡多試験所の責任者として各種試験に携わり、試験所の発展のために尽力されました。

後任には、森本智香男氏が就任されます。前任者同様、よろしく願いいたします。

“失われた継続性の自信”

(コンクリート工業新聞より)

4 月 8 日付けのコンクリート工業新聞のコラム欄に、標記の見出しで次の文が載っていました。

大阪広域生コンクリート協同組合が 100 億円かけて 25 工場を廃棄する。その投資額の大きさ、廃棄工場数の多さはさることながら、大阪広域生コン協組による構造改善事業の公募に対し、組合員の約 4 分の 1 が応募したということの方に驚きを感じる。それほど多くの経営者が生コン業という商売をやめたいと考え、撤退のチャンスをうかがっていたのかと。

数量の激減が、生コン事業からの撤退を決めた最大の理由であることはいままでもない。加えて、老朽化したプラントを建てかえても投資回収の見通しが立てにくいとか、計量印字記録の提出など生コン J I S の厳格化による設備投資負担の増加とか、後継者難などいろいろの理由があるようだ。

今回の構造改善事業に応募こそしなかったが、生コン経営を続けられるかどうか、企業としての継続性に自信を失っている経営者は多い。これは全国の経営者にとって共通の悩みといえる。

「撤退できる会社はまだ体力(金)がある証拠。経営が厳しい会社ほど商売を続けざるを得ない」。関東地方のある生コン協組の幹部はこう指摘する。この幹部はこう続けた。「業界はいま、去るも地獄、残るも地獄と

いう様相だ」

今の厳しい業界の様子を言い当てていると思います。

防災訓練への参加を！

高知県では毎年6月1日から7日までの県民総合防災週間に、県内の河川敷などで総合防災訓練が行われています。訓練には消防や警察も参加し、南海地震でビルが倒壊したことを想定した救出訓練や堤防の決壊を想定した訓練などが行われます。



また、次の南海地震で津波の被害が予測されている須崎市や土佐市などでは、地域の自主防災組織が参加して津波から避難する訓練も行われています。

こうした防災訓練を繰り返すことで、地震や津波の被害を最小限に

く止めるための知識と技術が身につきます。また、家族の中の約束事や隣近所の連携を確認する良い機会にもなります。いざという時に頼りになるのは、家族や隣近所の助け合いです。

市町村や地域によっては独自に訓練を行なっているほか、各地の消防本部でも救急救命などの講習会を開いています。できるだけこうした訓練や講習会に参加して避難や助け合いがスムーズにできるようにしておきましょう。

本年度は6月6日(日)に南国市の物部川右岸で実施することになっており、当組合からは青年部(高橋佳久会長)がミキサー車を使用した火災消火訓練に参加する予定です。組合員やご家族の方々にぜひ来場のうえ、青年部の活躍を応援していただくと同時に、防災知識を身につけられるようお願いいたします。

(イラストはやなせたかし氏。高知県の防災パンフレットから転載)

骨材共通試験を実施しました

前号でお知らせしたように、工業組合技術委員会では全生連技術委員会の要請により、試験結果の信頼性やばらつきを調査する目的で、同一の骨材を各組合員

工場で個別に試験していただき、その結果を持ち寄って解析する「共通試験」を実施しました。



ご存知のように、生コンの容積の約7割を骨材が占めているので、生コンの性状は骨材の品質に大きく左右されます。骨材が悪ければ、セメントをいくら増やしても所要の品質が得られません。そのため常に骨材の品質を把握しておく必要があり、JISでは骨材の種類別に試験項目や頻度が定められています。また、その試験には高度の技術が必要で、試験機器の精度管理はもちろん、技術者自身の継続的な技術研鑽が必要で、自分の技術を常に他と比べて誤差の許容範囲に入っていることを確認しなければなりません。それには、同一骨材を皆で個別に試験して、結果を持ち寄って解析するのが簡単で確実な方法です。

これまでに、高知県全体でこうした共通試験を実施したことはありませんでしたが、今回36工場と技術センター2試験所の協力で、各種のデータを集めることができました。

詳しい結果については、3月度工業組合技術委員会で報告しましたが、いくつかの試験項目で「不満足」と判定された工場が1工場ありました。また、試験項目によっては標準偏差があまりにも大きすぎる傾向も見られ、各工場のさらなる試験技術の向上が必要ではないか、という意見もありました。

今回は細骨材の密度・吸水率、微粒分量、粒形判定実積率について行いましたが、次回は粗骨材についても実施したいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。

なお、結果の詳細について知りたい方は、技術センター東部試験所まで問い合わせてください。

品管責任者(QMR)の配置を

正副品質管理監査統括責任者を対象とした平成22年度の品質管理監査説明会が3月23日に松山市で開催され、当組合からは該当する森澤勝弘、西内裕和、弘嶋隆宏の3氏が出席しました。

全国会議の友澤史紀副議長からの総括的な報告に続いて全国会議小委員会の辻幸和氏からチェックリストの概要についての説明がありました。

この説明会の内容については3月度技術委員会で各技術委員に報告されましたが、特に注意すべきチェック項目として、本年度からは品質管理責任者(QMR=Quality Management Representative)及びその代理者として、しかるべき資格を有する者を選任することが義務付けられました。21年度まではこの資格要件が緩和されていたので、該当する工場は注意してください。

＝ 雑感 ＝

(有)高幡生コンクリートサービス 田邊聖



自家用車による走行距離が1年半で6万kmを超えた。職業運転手とは比べるべくもないが、我ながらまあ良く走ったなと感心する。公共交通機関の貧弱な本県では何をすることも車に頼りしかない。しかも道路事情は四国4県の中で最も悪いときている。

私の生活基盤は県西南部の四万十町であり、日本最後の清流といわれる四万十川のゆったりした流れに沿った国道381号線には四季それぞれの良さがあるが、仕事で走る分にはそのんびりもしてられない。

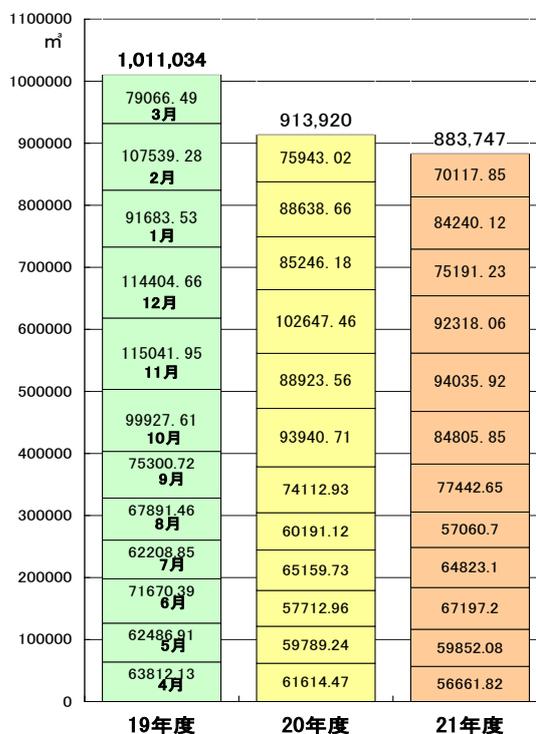
生コン工業組合のある高知市まで約100km、高速道路なら1時間というところだろうが、その高速もまだ途中の須崎市までしか伸びていない。現在は窪川地区まで延伸工事中であり、幸いなことに生コンを納入させていただいてありがたく感謝しているが、開通はまだ数年先とのことである。残り部分は片側一車線の国道だが、これがまた起伏の多さに泣かされる。高度差300m、長さ6kmのくねった峠を越え、いくつものトンネルを抜けなければならないのだ。

40,000kmということは、平均時速50kmとすれば800時間走った計算になる。日数に直すと33日だ。年間の睡眠時間が100日余り、食事が365日×3回×30分として23日だから、それよりも長く走り続けている。惜しむらくは、ただただ走っているだけで、それに見合うだけの成果の上がないことだ。ちっともカネにつながらず、「貧乏ヒマなし」とはこのことだろう。

貧乏性の私はこれからもあくせくと走り続けなければならないだろうが、せめてもう少し走りやすいように、幹線部分だけでも高速道を延伸して欲しいものだ。

前年比 96.7% 21年度出荷実績

平成21年度の当組合の生コン出荷実績数量は下図(単位 m³)の通りです。年度前半から秋口にかけては前年度に比べ、やや増加の兆も見られ密かに期待していたのですが、新政権発足による公共事業費削減方針などの影響を受け、再び停滞状態となりました。また、共同販売に係る数量は468,396 m³で、全出荷に対する比率は53%となっています。



話題、ニュース等下記までお知らせください。

生コン高知編集局

発行人 田邊 聖

編集人 小松 正浩

高知県生コンクリート工業組合

高知県生コンクリート協同組合連合会

高知県高知市城山町183-5

電話 088-833-3110

FAX 088-833-3242

Mail namakon-kochi@sirius.ocn.ne.jp